



六
義
省

未定艸

深江順暢

2515



414
A1119

大藏

總論

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

要タル先ツ前後數年ノ收支ヲ通觀ニテ其
 盈縮屈伸ノ由ル所ヲ洞察シ以テ後來數年ノ概計
 ヲ定メ由テ以テ操縦開塞ノ方略ヲ旋ラシテ在リ而
 シテ毎年會計ノ景狀ハ曾テ上ル所ノ豫算表ニ
 於テ粗ニ其梗概ヲ知ルベシト虽是其一歲ノ收支ヲ
 列載スル過ザルノミ未ダ以テ前後數年ヲ通觀シテ
 以テ其方略如何ヲ議スルニ足ラズ抑々經制ノ法譬ハ
 ハ奕碁人如シ者ノ其全局ヲ通視シテ以テ輸贏ノ
 由ル所ヲ審察シ而シテ後ニ子ヲ下メ非レハ安ニシテ其全



勝ヲ保スルヲ得ニ故ニ今往時ノ既ニ然ル者ヲ彰カニ
 シテ以テ将来理勢ノ赴ク所ヲ察スルニ年々會計ノ
 數大出入ナシト雖モ或ハ時ニ制度ノ更革スヘキモノア
 リ或ハ大ニ事業ノ創設スヘキモノアリテ譬ハ甲年ノ
 歳入ニ於テ既ニ大ニ溢額ノ數アルカ如キモ乙年ノ歳
 出ニ至テハ却テ若干ノ虧乏ヲ生シ而シテ又之ヲ丙年ニ
 以例スレハ大ニ反動ノ勢ヲ生シテ丁年ニ至テハ乙年
 ノ欠乏ヲ補フテ餘リアルガ如キ其轉換變化ノ豫メ
 宜ムベカラザル果シテ一二年間ノ能ク全局ヲ審定シ
 得ル所ニアラズ故ニ其之ニ壽スルノ法モ亦決シテ近慮短見

者ノ能ク及フ所ニ非スニテ又齟齬守株者ノ様ニ依テ
 胡蓋ラ畫クカ知ナルベカラザルヤ明カナリシマ機ヲ察
 シ勢ニ適シ我ニ既ニ永遠ノ見アリテ由テ以テ善後ノ
 良算ヲ立ルニ非バンハ安ニ一時蹉跌ノ虞ナキヲ保ヒ
 因テ試ニ今後十年ヲ以テ一區域トシ此年度中ニ於テ
 會計ノ盈絀如何ヲ高量為度ニテ以テ其措置ノ
 方略ヲ論スル左ノ如シ

支出ノ歳ニ多キ所以ヲ論ス

是ニ於テ連年歳出ノ増減多寡如何ヲ顧視スルニ用
 需ノ日ニ倍ニ支出ノ日ニ幾キ其勢過ヒベカラザル者ノ如ク
 因テ其實額ノ歳ニ増ス者ヲ算スルニ明治五年ハ六千五百
 四拾萬七千八百九拾七圓ニシテ六年ハ七千四百九拾七萬
 千六百六拾圓七年ハ七千六百四拾萬五千五百三拾圓八
 年ニ至リテハ半年ノ支出既ニ四千七百五拾五萬千七百六拾
 中國ニシテ全年ヲ率算スルハ九千五百五萬三千五百三拾
 圓ノ多キニ至ル其年々増加スルノ數既ニ此ノ如ク後來ノ
 事ニ推知スベキノ蓋大凡創業ノ國ニ在テ殊ニ民物ノ

武昌ヲ希ヒ文化ノ開進ヲ望ムモノ事端ノ曰ニ滋キ支費
 又隨テ多カラザルヲ得テ物盛ニシテ用廣キハ理勢ノ同
 也然ル者ニシテ獨我邦ノ多事ヲ咎ムカラザルヤ固ヨリ
 也然レモ功ニ謂ラク財ヲ用ユルノ法益深ク其利害ノアル
 所ヲ高量シ務メテ一時ノ後費ヲ戒メテ永遠ノ巨益ヲ
 規スルニ在リ故苟クモ能ク此別ヲ辨知シ措置宜シキヲ得テ
 操縱機ニ適セシムバ縱令歳出ノ過溢ナルモ異日ニ補
 償スルノ期アリテ未ダシモ深ク憂フルニ足ラザル者アリ
 譬言バ茲ニ兩富民アリ一ハ衣服ノ華歛食ノ美ヲ求メ
 テ以テ一日ノ驕佚ニ誇リ一ハ土田ヲ買ヒ器械ヲ購ヒテ

以テ後來ノ資益ヲ謀ル是其財ヲ散スヤ一ナリト虽モ其
 得失ノ異ナルニ膏膏壤ナルノミナラズ是之ヲ財ヲ用ユル時
 ノ後費ニ供スルトノ永遠ノ巨益ヲ謀ルトノ別アリトイフ所以ナ
 リ聞米國ノ如キモ新造ノ國ヲ以テ歐洲諸國ニ抗衡セシ
 テヲ謀ルカ故ニ鐵路ヲ創闢シ物業ヲ啓導スルノ類其他
 ノ支用極メテ廣ク事端甚繁キモ其望ム所ハ皆遠大無窮
 ノ鉅益ヲ謀リ竟ニ他邦ノ欠償ヲ期スルニ非ハナシ故ニ國債ヲ
 募リ紙幣ヲ發シ一時窮急ノ狀アルニ似タルモ未ダ必シモ
 溢ク岩ムルニ足ラザルナリ然ラバ則我歳出ノ日ニ増ステ前ニシテ
 費ノ如クナルモ果シテ亦米國ノ如クナルヤ否ヤ是固ヨリ深思

自交セザルカラヤル者ナリ抑モ一國ノ經濟タル彼區々守
錢奴ノ唯其失フニイラシク怒ルカ如キ非ハ論ナリ且ニ偏
ニテ創業ニ藉キ率意妄用遂ニ併セラ開物ノ途ヲ塞キ
經制ノ術ヲ誤ルニ至テハ歐米諸國ノ為ニ讪笑セラレザルモノ
幾希ナリ豈深ク慮ラサルベシヤ
訕

収入ノ大ニ減スル所以ヲ論ス

嚮者地租改正ノ令ヲ布ク地方官稍之ヲ遵奉ニ其既
改正ヲ訖ル者數縣皆租入ノ幾分ヲ減ス然ルニ各府縣皆
其事ニ從フコトハ久シカラズシテ地券ノ全ク行ワルマ知ルベシ而
夫地券ノ稅タル其主意モト農租ヲ輕クスルニ在リ而西南
地方ノ如キ昔時封建ノ日於テハ各藩多クハ地力ヲ盡シテ
會計ヲ裨ケンコトヲ謀ルヲ以テ其丈量嚴實ニシテ徵租尤
重ク其貢額ノ多キ或ハ六公四民ニ近キ者アラシキカレ今
地價ヲ以テ本トシテ其稅ヲ定ムルトキハ試ニ上田一反ノ収ノ獲
ヲ以テ米貳石トナシ一石ノ米價四圓トシテ共ニ八圓ユルヲ以テ

利了トシテ其母金ヲ算スルハハ米利即チ百圓其百分ノ三ヲ
 稅スルハ上田一及ノ租金正ニ三圓トナル地主ノ全益五圓ニシテ
年五米ノ利アタルモコレヲ往時ノ
 五公五民ナル者ニ比スルニ尚租米貳斗五升ノ價金壹圓ヲ減前ノ一及ノ
租米壹石
價金四圓トスルモノ然レモ之ヲ中以下ノ諸田ニ率スルニ其減益少ナリ且薄租
 ノ地ハ新稅及テ旧稅ヲ増スルヲ或檢地ニ目テ田積ノ餘剩ヲ得ルモノナルハ
凡一及ニシテ平均金三
 拾錢ヲ減ストシテ之ヲ算スルニ百町ニシテ三百圓ヲ減ス之ニ因テ
 假ニ全國耕地概計三百萬町トシテ大凡千万圓ヲ減スベシ然
 レモ是深ク歳入ノ耗絀ヲ慮リ慎シテ其實際差減ノ多キ
 者ニ就テ算出スル者ナリモシ其施行ノ既ニ訖ルニ至テ或
 ハ減スルノ此ノ如キノ多キニ至ラザラシメバ是真ニ意外

ノ幸ノミ豈豫シメ之ヲ期望ノ中ニ置クコトヲ得ンヤ而シテ
 其租額一タヒ定マルハ假令租入ノ大ニ減スルモ遽ニコレヲ増ス
 ニ由ラシ是其歳入ノ減スル尤大ナル者ナリ此他川々國役金
 及小物成浮役等ノ雜科七八年間ニ在テ蠲免スル所又殆
 シト百万圓ニ至ル是既ニ本年豫算數中ニ掲ケスト雖モ又
 皆以テ歳入ノ減スルモノト見做サカルヲ得ス

歳計ノ不足ヲ補フ方法ヲ論ス

夫レ歳出ノ既ニ過多ニシテ歳入ノ將ニ減セニトスル者此ノ如ク
 鉅數ナルハ其出入ノ相補ワザル國計ニ恣何トモスベカラザル
 者ノ如ク然リ而シテ之ヲ濟フノ道ニ至テハ實ニ其策ナキニア
 ベシテ今姑ラク之ヲ措キ先ツ我邦内方今舉行ノ所事業
 中ニ就テ之ヲ論スルニ鑛道ノ既ニ設ケルアリ漁船ノ既ニ購スル
 アリ諸君械ノ既ニ具フルアリ學術ノ漸ク啓ケル工業ノ益進
 ムカク如キ成績ノ顯著見ルベキ者存心ニ勤メトヒズモ其閑進
 ラ望ムノ切ナル者ヨリシテ之ヲ視レバ尚ホ多ク其萬一ヲ補フニ
 足ラザル者ノ如キモ之ヲ今日人民ノ貧富ニ考メ國計ノ盈絀ニ

稽つる蓋既ニ過度ニ至ル者^{ト謂フ}且前ニイフ所歳出入ノ
 相當ラザル若シ今日ニシテ唯ニ前進ヲ期シ更ニ顛覆ヲ顧ミヤ
 決シテ救急濟時ノ良圖アラズシテ遠ク垂裕善後ノ
 基ヲ鞏クセザル^ト亦將來ノ傾頽ヲ杜ク所以ニ非ハナリ故ニ
 今假リ本年豫算表ニ準ル所歳出入總額ヲ以テ後年
 ノ準的トシ今ヨリ數年間必此數ニ踰ルヲナキヲ期シ以テ之ヲ
 通觀スルモ尚歲計ノ時^{租入}減セントスル者前ニイフ所千萬圓ノ
 多キニ至ルトキハ歲計ノ不足ヲ生スルヤ即チ既ニ甚大ナリ而シテ後
 前事業ノ既ニ^増學カル者寧^ク此際ニ駐メテ進マサルモ又
 必退歩スベキノ理アラザル時^{租入}其用充ツルニ足ラサルヤ甘々明ラ

カナリ今其之ヲ補フ所以ノ道ニ至テハ固ヨリ一朝一夕ノヨク致
 ス所ニ非スト虽氏深ク思ヒテ永遠ニ固ラシ意ヲ後來ニ注シテ
 以テ熟慮審按スル^ト其十年ヲ出スレテ餘裕生スベキ者左ノ十
 説ヲ得タリ一曰ク内外ニ債償還ノ餘財ナリニ二曰ク北地開
 拓經營ノ減額ナリ三曰ク工業創設ノ餘裕ナリ四曰ク官祿
 ノ減額ナリ五曰ク郵便ノ増益ナリ六曰ク諸税ノ加敷ナリ七曰ク
 新科ノ税額ナリ八曰ク輸入物品ノ課税ナリ九曰ク外人ノ科率
 ナリ十曰ク商業ノ加税ナリ清^ク詳カニ之ヲ陳ヒン

其一

何ヲカ云債償還ノ餘財トイフ曰ク嘗テ士族ノ家祿ヲ
 指分セシカ為債ヲ外國ニ募ル者之ヲ名ツケテ倫敦新債
 トイフ其元金千百四拾六萬千三百六拾餘圓ニシテ其士族ノ
 家祿ヲ奉還スル者ニ付與スル者之ヲ秩祿云債ト云其元金
 千百五十三万六千九百五拾圓アリ而シテ此ニ債ヲ償還スルハ即テ
 其奉還ノ家祿ヲ以テシテ不足アルヲナキノミナラズ尚若干ノ
 餘贏アルヲ得ベシ今試ニ之カ計算ヲ立テ凡十年ノ間ニシ
 テ其裕耗如何ヲ推測スルハ大數左ノ如シ

| 會計年度 | 七年分奉還債 常用準備金高 | 外國新債 元利償還 | 秩祿債 元利償還 | 殘高 |
|------|----------------------|-----------------------------------|-------------|----|
| 八年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 九二二。九五六。〇。〇。一八。五七三。八七八 | 〇。 | 〇。 |
| 九年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 一八四。三三三。四。〇。一八。四三三。四七二 | 〇。 | 〇。 |
| 十年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 二四九。七四四。四。〇。二七。二四九。三六二 | 〇。 | 〇。 |
| 十一年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 二二六。五九四。四。〇。二七。三六三。〇。五三一 | 〇。 | 〇。 |
| 十二年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 二二二。三三三。七。四。三。七。一。三 | 〇。 | 〇。 |
| 十三年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 二一。〇。一八九二。八五六 | 〇。 | 〇。 |
| 十四年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 一九七。〇。四。一。九九九 | 〇。 | 〇。 |
| 十五年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 一八三。八一。九。一。四。二 | 〇。 | 〇。 |
| 十六年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 七八五。七六一。七。一。三。一。九。四。二。九。三。三。〇。七。六 | 〇。 | 〇。 |
| 十七年 | 三七八八。四五一八九一。五九三五。四〇。 | 〇。 | 〇。 | 〇。 |

此家禄米ヲ金ニ折スルノ算ハ假リ、壹石四匁ヲ以テ準ト
ス而シテ本年秩禄ニ債ヲ償却スルノ少ナキハ利子ノ支出ス
ル者多クシテ原金ノ償還ニ及フヲ得サル、由ルト虽凡九年
至テハ始メテ六年付典ノ秩禄ニ債ヲ償還シ得十年ニ
至テハ又其六七兩年ノ公債ヲ併セ償フ、因テ其数一タヒ
多キモ十一年以後ハ償還ノ数逐年遞減シ十五年ニ至
テハ六年ノ償却全ク完了シ十六年ハ七年ノ償却又全ク
終ル、因テ十七年以後ノ如キハ年々家禄贏餘ノ收入スル
者貳百七拾貳萬八千六百九拾餘匁ニ上ル而シテ之ヲ年々
ニ率スルニ其少ナキモ尚貳拾三方壹千餘匁ニ下ラズ故ニ之ヲ

以テ偏敷公債ノ償還ニ充ルニ當リ若干ノ餘裕アルノミナ
ラス之ヲ準備金中ニ収メテ運轉活用セバ十年ノ後ニ至リ
之ヲ以テ他ノ内外諸債ヲ減削スルヲ得ルハ固ヨリ當テ視
望スル所ニシテ其成功ノ誤リナキハ又自カラ信ニテ疑ハサル可
ナリ又顧ミテ他ノ公債ノ年々増減スル所以ノ計算ヲ注視ス
ルニ諸國債ヲ全算シテ本年償還スベキ金額母子共ニ貳百
七萬一千九百七拾金匁ニシテ九年ニ至ルハ別ニ金札引換ニ債
ノ原金ヲ抽籤償還スベキカ為ニ其額更ニ増加スト虽十年
以後ハ其數遞ニ減シ十二年ニ至リ始テ八年ノ數ニ復シ十四年
ニ至ルハ偏敷公債ノ償却方ニ終ルヲ以テ減少ノ數尤多ク

十八年ニ至テの本羊ヲ距八十有一年ニ至テ竟ニ其減スルノ
 數本年ヨリ多キイ百貳拾貳萬三千餘圓ヲ得ルニ至レリ

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 十二年 | 十三年 | 十四年 | 十五年 | 十六年 | 十七年 | 十八年 |
| 二〇 | 一六 | 一八 | 一三 | 一三 | 一八 | 一四 |
| 三三 | 三六 | 三〇 | 三〇 | 二六 | 三三 | 二四 |
| 三六 | 四四 | 三三 | 三一 | 三一 | 二八 | 二〇 |
| 三六 | 一四 | 一四 | 一三 | 一四 | 一八 | 一六 |
| 三六 | 二二 | 一〇 | 二八 | 二四 | 二六 | 一六 |
| 三六 | 一六 | 一四 | 一四 | 一四 | 一六 | 一六 |

百七拾貳萬八千六百餘圓ヲ以テセバ其羊々支出ノ減スルモノ

殆ニト

四百五拾萬圓

ノ巨額ニ上ルヘシ

十八年ニ至ラハ本年ヲ距八十有一年ニシテ竟ニ其減スルノ
 數本年ヨリ多キト百貳拾貳萬三千餘圓ヲ得ルニ至レリ
 大略左表ノ如シ

| 會計 年度 | 十八年 | 十七年 | 十六年 | 十五年 | 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 |
|-------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 内外國債元利及償還概算表 | 一二四九,九二〇 | 一二八三,三一八 | 一三一六,七一五 | 一三五〇,一一三 | 一八八〇,九三四 | 一九五八,四七一 | 二〇三九,九五九 | 二一〇三,五五五 | 二一八八,四三二 | 二二〇四,七八七 | 二〇七一,九七九 |
| 社債及債及備 款新公債ヲ除ク | 六五一 | 一九七 | 七四二 | 二八七 | 一一四 | 二五九 | 四七六 | 五五〇 | 二六九五 | 七九三 | 九六〇 |

| | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|
| 十一年 | 二一 | 一三 | 一四 | 五五 | 五五 |
| 十年 | 二一 | 八八 | 四三 | 二六 | 五五 |
| 九年 | 二二 | 〇四 | 七八 | 五三 | 三一 |
| 八年 | 二〇 | 七八 | 五三 | 六〇 | 五 |

長國庫六條
 一、國庫
 二、公債
 三、公債
 四、公債
 五、公債
 六、公債

今此二表ノ事ル所内外新田ノ公債ヲ併セテ急皆之ヲ算
 計ニ本年償還スル所ノ金額ト十八年ニ支出スル總額トノ
 差異ヲ求ムルニ其減スル者百七拾四萬五千餘圓ニ至ル増加ノ最高點
十八年ノ金額ヨリハ三百四拾萬五千円ヲ減スニ故ニ此十年間ニ於テ年々支出ノ多キモ能ク之ヲ
 耐忍支持シテ國債ノ償却期ヲ謬ハナカラシメハ會計上果シ
 テ此ノ如キノ餘裕ヲ見ルベシ之ニ加フルニ奉還家祿ノ贏餘或

百七拾貳萬八千六百餘圓ヲ以テモ其年々支出ノ減スルモノ
 殆ニト

四百五拾萬圓

ノ巨額ニ上ルベシ

ノ費出ヲ減抑モ地方開拓ノ業タル其最モ成リ難ク
 シテ^{シテ}處ニ其效ヲ見ルベカラザルヤ論ヲ^録ズ况ニヤ北海ノ地タ
 ル積雪冥冥ノ甚キ蠻烟瘴霧ノ人ヲ害スル深山大澤
 ノ地ニ滿ハ實ニ天地剖判ノ肇ノ異ナラス故ニ山ノ鑿ツヘク
 海ノ煮ルベク耕耘ノ教ユヘク道路ノ闢クベキ凡民ノ導キ
 利ヲ興ニ害ヲ避ケ物ヲ殖スルノ方ニシテ是ラモ百般ノ經費
 之ヲ其地益ニ資リテ以テ辨給スル能ワザルハ固ヨリ其理ナ
 リ然レモ近年以來從事ノ久シキ荆^棘漸除キ風化稍行
 ワレ地ノ物ヲ産スル日ニ蕃ク民ノ業ニ就ク者随テ多ク已ニ
 後來殷富ノ兆候ヲ著スモノアリ今既ニ此ノ如クナレハ十年

ノ後ニ至テハ又シモ内地ノ供給ヲ仰カズシテ不足ノ患ナカラ
 ニトス是其歲出中此贏餘ヲ生スベシト謂フ所以ナリ

其三

何ラカ工業創設ノ餘裕トイフロク凡事ヲ創メエラ起スニカ
 ハ其獲ル所ノ利以テ其費ス所ヲ償フニ足ラザルハ理整ノ固
 ヲリ然ル所ナリ例ハ一農夫アリ既ニ數頃ノ地ヲ有スト虽徒手
 ニシテ業ヲ起ス能ハス其使用ニ供スヘキモノ鋤耨ノ如キ類
 鑿ノ如キ又ス之ヲ他ニ求メテ以テ自カラ備ヘザルヲ得ス其秋獲
 ニ臨ニテ僅カキ其勞力ノ償フニ足ルニキモノアルモ諸器購求
 ノ價ニ至テハ安ニゴ一時ニ之ヲ措難スルヲ得ニヤ然レモシ
 其明年以後ニ至レバ復器械ノ他ニ求ルヲ需スレテ使用既
 足ルカ為ニ其利務甚失フ所ヲ償フニキヲ得レ工部ノ

事業殆^ニ之^ニ想^{ヨリ}共^ニ置^ル者^ノ以來^ニ起^ル所^ノ業^々ハ
 電線ナリ錢路ナリ燈臺ナリ瓦屋ナリ坑山ナリ其費用
 ノ夥^シキ實^ニ駭^ク巨額^ニ上^リ蓋^シ世^ノ蒙^昧ヲ開
 悟^セメ人^ノ智^巧ヲ勸^導ス方^リテ百般^ノ便^益ヲ起^シ
 以^テ歐^米各^國ト駢^駟並^馳セ^ニト欲^スル^ハ凡^ク此^等ノ事業
 文^費ヲ畜^ニテ手^ヲ下^サザル^ノ揮^キハ是^レ亦^ハ物^カノシ^カラ^ズ
 ル^所ナリ然^レト^モ虽^レ氏^今成^蹟ヲ呈^スル諸^大業^及ヒ現^ニ
 存^置スル^所ノ諸^若具^ノ如^キハ^ノ則^ニ謂^フル^ハ農^末ノ^計具^ナ
 リ矧^ニヤ鑛^屬ノ陸^續ト^シテ產^出之^海車^ノ輾^轉
 テ百^貨ヲ運^搬シ電^信ノ千^里瞬^息相^通スル^カ如^キ智

巧^ヲ所^張之^世益^ヲ增^進スル^其功^効カ^ラサル^ノミ^ナラ^ズ
 又^況ニ^ヤ什^器製^作ノ巧^妙ナル^最價^{アル}モ^ノヲ買^得シ
 テ^永ク^我有^トス^モノ^{アル}ニ^於テ^オヤ^目今^其事^業ノ
 未^タ完^全ナ^ラサル^モノ^{アル}モ^端緒^既啓^キ大^段既^備ワ
 リ^自始^メテ^之ヲ^創立^スベ^キ者^ニ至^テハ^蓋シ^甚少^ナシ
 然^ラハ^則工^部ノ^費額^ハ逐^年減^省ス^ルト^疑ヲ^容レ^大且^之
 ヲ^裁節^スル^モ其^獲ル^所ノ^益或^ハ其^費ス^所ヲ^補フ^ベ
 ク^ニテ^決シ^テ其^事業^ノ退^步ヲ^憂フ^ルナ^カル^ヘ之^既本
 年^定ル^所ノ^金額^ノ如^キモ^密歲^{ヨリ}減^スル^モノ^七拾
 七^萬七^千金^圓ナ^リ之^ヲ以^テ之^ヲ視^レ今^後遞^減十^年ノ

外ニ出ズニ凡

金貳百萬圓

ヲ減節ニ得ベシ目算セリ

其四

何ヲカ内官祿ノ収税トイフ曰ク官祿税ノ収入ハ明治七年
 一月ノ創設ニ係レリ而シテ其之ヲ課スルハ勅任以上ヲセ分下
 シ奏任以上ヲ二十分トス其他判任以下概シテ之ヲ課
 セス其意蓋給額ノ多キモノハ税ヲ課スル妨ケナシト
 虽其少ナキ者ニ至ツテハ或供給ニ堪ユベカラサルヲ慮テ
 ナリ然レ氏既ニ勅任ト奏任トヲ分テ課率ノ差ヲ立ルハ
 判任以下又其差等ヲ減シテ賦額ヲ定メバ亦何ノ
 闕ル所アラニヤ譬ハハ茲ニ人アリ其百畝ヲ耕スモノト十
 畝ヲ耕スモノトハ獲ノ多少異ナリト虽モコレヲ其各

一畝。率スル。其量。同。故。獨百畝ノ者ヲ徵收
之テ十畝ノ者ヲ蠲除スル。豈コレヲ公平ヲ得タリトセニヤ
因テ思フ。税ノ羨任以上ニ課シテ判任以下ニ及ハサル恐
クハ至當ノ理ニ非ニ。因テ今後之ヲ課スル。此ノ税ヲ以テ
^{スル}孰カ敢テ其非ヲ斥ルモノアラニヤ。今假リ。税率
ヲ定メ。現時判任官負月給年額三百拾三萬六千貳百
拾貳圓トシコレニ課スル。三十分ノ税ヲ以テスル。金拾萬四千
ヲ收入ニ得ニ

其五

何ヲカ郵便ノ増益トイフ。曰ク郵便ヲ邦内ニ創設
ハ明治四年ノ春ニシテ爾來漸ク其線路ヲ密布シ
今ヤ蔓延至ラサル所ナリ。通信隨テ増シ以テ衆庶ノ便
益ヲ資クルヤ尤大ナリ。既ニ去年通信書冊ノ數ヲ算ス
ルニ一千九百九拾三萬七千四百金ニシテ其前年ヨリ増
益スル者ハ割九分其税タルニ拾五萬貳千貳百金圓ニシテ
前年ヨリ五割六分金ノ増加ヲ見ル。故ニ本年ハ此割合ヲ
參テ酌シテ凡税五拾七萬圓ヲ得ベシトシ豫算表
中ニ掲載セリ。夫其増進ノ勢此ノ如ク速カナルニ

年ヲおスレテ其幾分ヲ増スヤ知ルヘカラス然レモ更ニ
 其事業ノ開墾ヲ要スル時ハ駅站ノ増置スヘキアリ
 脚夫ノ備入スヘキアリ器具ノ新製スヘキアリ其經費モ
 亦隨テ博カラザルヲ得ス是ヲ以テ収税ノ増スヘアルモ
 或ハ却テ其費用ヲ補フニ足ラザルモ亦知ルベカラス然レモ
 今誠ニ前ニ掲クル所ノ送物數ヲ以テ全國ノ入口ニ以
 算スルニ二人ニシテ僅カニ一箇ニ分弱ノ割合ニスギス此之
 レヲ盛ニナルヲ極ト謂フヘケニヤ故ニモシ今後文學ノ教
 普ク敷キ交際ノ道漸ク開ケ遊隙僻土ノ民ト虽人々
 郵便ノ益ヲ知ル日一日ヨリモ熾ニ十八時内外ノ信線相維キ其往復亦漸クハ久カラズシテ今
 感ニ

日ノ幾倍ニ至ルハ智者ヲ待タズシテ知ルヘキナリ矧ニヤ其
 新置スヘキ者既ニ置キ備具スヘキ者既ニ具ニ更ニ事
 ラ興スラ要セサルノ日ニ至ラバ經費ノ減スル疑ヲ容レサル
 於テカヤ故ニ今ヨリ之ヲ按算スルニ四五年間ニ於テハ収
 入モ増シ邊カニ其利益ヲ見ルヲアタワザルモ六七
 年ノ後ニ至リテハ得ル所果シテ此經費ヲ償フニ餘リアリ
 少クモ年々ハ萬圓初年ハ一割四分ニ増スベシト思擬シ
 十年以後ニ至テハ其増収凡末年ハ九割ヲマス割

金四拾萬圓

得ルハ益ニ疑ヲ容レズ而シテ此四拾萬圓ハ即チ本年豫

算ノ外ニアルハ其ノ以テ歳入ノ一部ヲ補フニ足ラニ

其六

何ヲカ諸税ノ加数トイフ曰ク本年豫算表中掲クル所ノ
 税額ハ従前賦課スル所ノ諸税ノ概算ニシテ其既往
 毎年通増ノ数ヲ参酌シテ假リニ本年ノ收入ヲ具列
 スルニ過ヤス尚之ヲ各主任ノ豫算ニ徴シテ以テ明治九
 年ノ收入ヲ推算スルニ酒類諸税ノ釐革ニヨツテ酒ヲ釀
 ス者ノ税三千五百六千六百六拾圓之ヲ受賣リスル者
 ノ税拾九万五千五百七拾圓 是今年新ニ課スル者ニシテ既ニ
 府縣ニ交付スル鑑札中其四公一ヲ
 除キ其餘數ヲ以テ 之ヲ算スル者ナリ 釀造ノ酒量ニ科スル者貳百貳拾万
 八千圓 釀造ノ量凡三百六拾八万石トシ
 石價六圓ヲ乘
 合セテ貳百七拾

釀造ノ酒量ニ科スル者

合セテ貳百七拾

五万六千貳百三十拾圓ニシテ豫算ヨリマス者百拾四
 万三千百四拾六圓其證券印紙税ニ於テモ人民ノ
 信ヲ得ル日ニ萬クシテ疑ヲ懷ク者日ニ少ナケレハ其之
 ヲ貼用スル者必ス隨テ多ク更ニ数年ヲ歴ルニ至テ
 ハ本年ノ豫算ニ此シテ必幾分ノ陪加アルニ疑ヒナレ
 因テ其マス者ヲ假ニ本年計數五拾三百四千ノ半トスル
九百拾七圓ハ此マス者亦貳拾五万圓ニ至ルハ疑ヲイレズ且其諸
 鑛山ニ於テハ器械ノ具ナル人工ノ益精シキ數年ナラズシテ官
 採ノ利大ニ其賞ス所ヲ償フニ足リテ果シテ増進ノ益ヲ見ルキ
 ノミナラス借區税ニ至テモ亦人民開業ノ日ニ多キ多ハ是亦幾

分ノ税ヲ益スヤシルヘシ其他賣買鑑札税諸車税ハ如キモ
 亦必ス逐年數多ノ増益ヲ生スルニ論ナシ因テ此四者ヲ合
 セテ概數セハ數年ノ後益亦拾万圓ニ下ラズ之ニ加フルニ
 烟草税ト訴訟紙代價ノ二項ハ本年概算スルモノ合セテ三拾
 万圓ニスギス九年一月以後半年ノ概算ニシテ烟草税金
拾万圓訴訟紙代價拾万圓トス其訴訟紙代價
 ノ一項ハ未タ実行セズシテ其増進ノ數概算スヘカラザルヲ以テ暫
 ク之ヲ除キ烟草税一項ニ就テ算スルモ全國戸數七百十万户
 ヲ以テ率トシ其畧々ハ山間僻邑ノ民自カラ取テ自カラ用ユル
 者トナシ其余五百三十二万五千戸一人ヲ喫烟者トシ凡一ケ
 年ニ八斤ヲ用ヒ壹斤ノ價拾錢ヲ準トシテ金四百貳拾六万圓

此十分一、税金四拾貳万六千圓ヲ得ベク其他卸賣小賣共税
金拾万六千五百圓 前ニアクル戸数中千戸ニ卸賣
一戸小賣ニ戸ノ際計ナリ 三科合マテ五
拾三万貳千五百圓ヲ得ルトセハ本年豫算ヨリマス者四拾三万
貳千五百圓ノ多キヲ見ル此数項ノ税ヲ合セテ凡
百九拾貳万五千六百四拾七圓

コレ今後数年間増スニアリテ減スルヲナキノ概算ナリ

其七

何ヲカ新科ノ税額トイフ曰ク後來税ノ新ニ課ス
ベキ者ニシテ本年ノ豫算ニ計上セザル者数科アリ
曰ク米相場會社 税 曰ク板権免許税ナリ曰
ク燈臺税ナリ 其 他科率ノ高工ニ於ル口賦ノ人民
ニ於ケルカ如キ地稅ノ改正ヲ待テ施スヘキ者亦少
ナカラズ今其中ニ就テ米相場會社ノ税ヲ五拾貳万
貳千圓トス此概算ハ内務省ノ推算スル所ニシテ
三府及ヒ兵庫神奈川堺ノ数縣ハ明治七年後半
年ノ高販米額ヲ準トシテ推算シ其四分一ヲ以テ税

金トシ其餘ノ十四縣ハ方今會社ノ設立アル者旧
新合セテ十三縣コレヲ三府ノ比例ニ依テ推算シユ
レヲ以テ一年ノ率トスル者ニシテ蓋シ又^増トアル
モ減スルトナキノ数トス其板権免許稅ハ圖書寮
ノ推算ニヨルニ八年一月ヨリ六月^月ニ至ルノ上半正出板
書籍一千二百十七部其三各ヲ板権ヲ許スモノトシテ
大凡九百圓トナルヲ以テ之ヲ二倍シテ千八百圓
ス而シテ我海岸港灣ニ燈臺ノ設立アルハ内外船
客ニ便ニスレ所以ニシテ凡通過ノ航船ニ科スルニ其
稅ヲ以テスルハ萬國慣行ノ法ニシテ外客ト雖^此之ヲ

拒ムベキノ辭アルヲ得ス因テ今既ニ之ガ法規ヲ立ルノ議
アルハ其之ヲ施スヤ遠キニ非スシテ試ニ普通ノ計算ヲ以テス
ルニ必ス拾万圓ニ下ラス三科合セテ收入スル所
六拾貳万三千八百圓
トス

其八

何ヲカ輸入物品ノ課税トイフ曰我邦外交ノ初メテ
 開キシハ既ニ十餘年ノ前ニアリ當時旧政府官吏
 ノ外情ニ熟セザルヨリ外恐迫ノ勢熾ニ抗シテ以テ
 内對敵ノ推理ヲ保有スル^能ク是ヲ以テ其訂
 議盟約ノ条款枉テ彼々請求ニ從ヒ我體面ヲ損ス
 ルモノ少ナカラズ是ヲ以テ貿易ノ權利多ク外人ノ
 為ニ操奪セラレ我ヲシテ取舍操縦一ツモ意ノ如ク
 ナル^トヲ得サシム蓋シ往時ニ在^リテハ勢ノ致ス所萬
 己ム^トヲ得ハルニ出ルモ今日堂々タル大政府百度興

張ノ日ニ方リテ猶甘ンシテ旧時ノ餘弊ヲ承ケ一旦之ヲ
更革スル能ハズンバ特ニ我獨立ノ國体ヲ虧ケノミケラ
ズ人民ノ利病國計ノ盈絀ニ関スルヤ尤大ナリ故ニコ
ノ条約ヲ改訂シ我高推ヲ收復スルハ方今諸有司ノ
尽瘁経畫スル所ニシテ其成效ヲ見ルノ日ハ果シテ應
ニ遠キニアラザルベシモシ幸ニ此喜ブベキノ時機ニ投マ
ハ我海關稅ノ増加スル果シテ幾千ノ額ニ至ルベキヤ
ヲ思惟スルニ明治六七兩年ノ輸入物品原價ノ平均
額貳千三百八十五萬圓ヲ以テ假リニ將來ノ準トシ
之レニ壹割二分ノ稅ヲ賦スレハ貳百八拾六萬八千余

圓ヲ收入シ得ベシ然レモ此新稅ヲ實施スルノ時ニ
至ラバ勢必輸入物品ノ價直ヲ騰シ大ニ内地人民ノ
需用ヲ減スヘキヲ以テ今豫メ其計ヲナシ減少ノ
額ヲ凡ソ從前輸入ノ四分^三下算シテ其額ヲ除却ス
ルモ^高百九拾萬八千余圓ニシテ之ヲ明治七
年ノ輸入稅ニ較レハ二倍以上ノ多キヲ得又之ヲ輸入
出兩稅ノ數ニ比スレハ三拾貳萬四千余圓ノ増加
アリ其増加スルモノ既ニ此ノ如クナルモ猶廢支ノ不
足ヲ憂ヘバ輸出物品中ニ就テ其最モ多量ニシテ收
稅ニ便ナル繭絲茶銅人參昆布蚕種ノ類ヲ擇ミ旧

依テ之ヲ賦スルモ五拾五万圓七年此六種ノ物ヨリ
收入スルモノ五拾四万千
八百拾三
圓余ニ下ラヤルヘシ又徒来入口ノ諸船ニ賦課スル
 出入港ノ手数料出港五弗
入港十五弗ヲ廢シ之ニ換フルニ歐米
 慣行ノ噸稅法ヲ以テシ入口船毎噸貳拾錢出口毎噸
 拾錢ヲ課スルハ其額亦貳拾万圓ヲ收入スベシ而
 シテ此三科ヲ合計スルハ貳百六拾六万貳千余
 圓ニ至ル之ヲ明治七年ノ輸出入稅及ヒ手数料ノ依
 法總額ニ以テ全ク増スモノ五万三千七百余圓ニシテ本年ノ豫算ニ以テハ
 九拾壹万〇三千余圓
 ノ多キヲ得ルナリ問フテ曰ク貿易ノ多寡年々其盛

衰ヲ異ニシテ明治六年ノ盛ナル如キハ前後ノ曾テ
 ナキ所取テ以テ準トスルハ果シテ他日ノ會計ヲ謬
 ルナカラシヤ且目今貨物ノ流通便ヲ失ヒ通商日ニ
 壅ルトキハ是レ後來ノ衰微ヲ徵スベキモノニアラズ
 ヤ曰ク然リ六年ノ輸入ヲミルニ其多キ固ヨリ他ノ年
 年ノ以ニ非スト雖然レ其翌年ニ至テハ大ニ輸入ノ數
 減シ之ヲ平均スレバ殆ント其大差ナキヲ見ル而
 シテ更ニ六七兩年ヲ平均シテ八年ノ上半年ニ以
 對スレバ其數ノ差異ナキヲ恰モ符ヲ合スルガ如シ
 是レ六七二年ヲ以テ準トスルノ太タ謬リナキヲ信

スルニ足レリ且試ニ開港以來貿易ノ形状ヲ通視
 スルニ輸出ハ年ニ從ツテ衰アルモ輸入ハ常ニ増進シ
 テ止マズ迨ニ貳百万円乃至三百万円ノ多キヲ加フ
 故ニ今後モシ異常ノ變禍アルニ非ルヨリハ其増進
 スルノ勢駁々過ムヘカラサルヤ必セリ之ニ加フルニ内地
 ノ物産日月ニ蕃殖シ運輸ノ便利益々開クルニ至
 テハ彼我貿易ノ物品更ニ一層ノ多キヲ加フルヤ疑
 ヒナシ是ニ由テ之ヲ視レバ内外貿易ノ旺盛期スベク
 シテ税額モ亦隨テ増加シ其收入ノ多キ幾百万円
 至ルモ知ルベカラズ况ヤ高權ヲ收メテ我握中ニ

歸シ操縦開塞意ノ如ク^{ナラ}ザガ^ルモノナキニ至ルニ於テ
 オヤ故ニ切ニ希クハ深ク經濟ノ要旨ニ注意シテ速ニ
 旧時ノ條約ヲ改正シ輸出税ヲ廢^棄シテ我物産ヲ勸
 奨シ輸入税額ヲ加徴シテ内外推衡ノ適度ヲ得セシ
 メ以テ國家富盛ノ遠^謀ヲ立ン^トテ

其九

何ヲカ外人ノ科率トイフ曰ク我内地ニ賦課スル
 税規ノ外審ニ施スヘキ者即チニアリ一ニ遊獵税
 ナリ二ニ証券印紙税ナリ夫遊獵ノ税タルハ既ニ内
 地人民ニ徵シテ未タ外人ニ及^施ラ得ス故ニ外人遊步
 里程ノ中ニ在テハ何ノ地ヲ論セス砲撃ヲ恣ニシ我吏
 人槩シテ之ヲ問ワホルニ付ス是ニ於テヤ彼漫然遊獵
 或ハ人民ヲ誤傷シ田禾ヲ^損害スル等之ニ因テ紛々ヲ
 生スルモノナギニテラズ是レ豈内外對等ノ權利ヲ有
 シテ以テ我侔面ヲ保護スルモノト^認ラ得ンヤ因テ

爾後外國人民ヲシテ我稅規ヲ遵奉セシメ各々給ス
 ルニ証票ヲ以テシ以テ其稅ヲ徵スベシ今其收入ヲ
 槩算スルニ現今在留ノ外人中ニ就テ富豪尊貴ナ
 ル者凡二千四百人トナシ其五十名一ヲ以テ遊獵ハ
 事ニ從フ者トセバ其人負四十又八每人拾田ヲ課シ
 テ毎年四百八拾田ヲ得ベシ且外人我ト高賣交易
 スルノ際我印稅規則ニ從テ印紙ヲ貼用セシムルハ其
 收額ヲ推算スルニ先ツ輸出入物品ヲ本トシ其元價控
 額四千四百八拾万田明治年ノ内ニ於テ官用品及口無
 稅品凡九百六拾四万田ヲ去リ其余三千五百貳拾万田

ナ以テ假ニ原數トシ其内ニ於テ証書取引ノ第一
 類ヲ八百八拾万田トシテ此稅八百八拾田其第二類
 ナ千八百六拾万田トシテ此稅壹万七千六百田帳簿
 取引ノ第一類ヲ貳百九拾三万三千貳百田トシテ
 此稅貳百九十三田余其第二類ヲ五百八拾六万六千六
 百田トシ此稅貳千九百三拾三田余徵シ得ベキモノ
 トス是其大抵差謬ナキニ近キ者ニシテ此稅金合セ
 テ貳万七千七百六田前ニ併セテ僅カニ
 貳万貳千八百八拾六田
 ニスギス是其多キニ過ルヨリ寧ロ少キニ就テ算出

スル者ニシテ今後貿易蕃昌ニシテ外人ヲシテ我
規則ヲ實踐セシムルニ至^ル獨リ其利ノコレヨリ大
ナルノミナラズシテ内外人ヲシテ同シク我法度ヲ奉
シテ以テ對等ノ權利ヲ得セシムル其益又淺少ナラ
ザル也

其十

何ヲカ高稅ノ新科トイフ曰ク夫レ地券ヲ施行シテ以
テ正租ヲ寬ニスルノ主旨ハモト民カヲ裕クニ農産
ヲ培養シテ遂ニ併セテ工藝高業^ヲ隆盛ニ至ラシメ
隨テ之カ稅ヲ課シ以テ本末ノ推衡ヲ弁カニシ其^{輕重}藝^業力
ヲシテ彼此相通セシムルニ在リ而シテ其工商ノ稅ヲ徵
スルハ固ヨリ物産蕃殖ノ後ニ在ルベクシテ之ヲ僅々三
数年ノ間ニ創施シテ急ニ生財ノ源ヲ塞クヘカラザル
ハ論ヲ待スト^ス然レ地券ノ既ニ行ワル者稍々
多^ク殆^ト全國ニ普及スルノ日ニ及ンテハ必又此高稅

ヲ舉行セザルヲ得ズキカラホレハ唯農業ノ稅ヲ寬クスルト
 イフノミ其偏輕偏重ノ狀ニ至テハ亦曰ニ依ルノ弊運應ナト
 因テキニ按スルニ全國高戸ノ概數タル凡百貳拾貳萬貳
 千五百五十一戸假ニ分テ六等トナシ一等高戸二百四十
 五戸男女雇人以上ハ一戸ニ毎年三十拾田ヲ課シ此税金七千三百
 五拾田二等壹萬二千二百二十五戸同上二十以上同シク毎年
 拾五田ニシテ此金拾八萬三千三百七拾五田三等六萬千百
 二十五戸同上十以上ハ拾田ニシテ此金六拾壹萬千貳百五拾田
 四等同上五以上十二萬二千二百五十五戸ハ五田此金六拾壹
 萬千貳百七拾五田五等同上壹以上四十八萬八千八百五戸ハ

貳田此金九拾七萬七千六百拾田六等雇人ナ五十三萬七千
 八百九十六戸ハ五拾錢ヲ課シテ此金貳拾六萬八千九百四拾
 八田六等ヲ合セテ凡其稅タル
 貳百貳拾五萬九千八百八圓
 ヲ得ントス是レ固ヨリ概算シテ其大數ヲ舉クルノミ其之ヲ
 實施シテ以テ其徵收ノ方法ヲ議スルニ至テハ必ニ當ニ委曲
 詳析錯雜不卒ノ弊ナカラシムベシ
 右舉ル所十説ヲ通算スルニ得ル所ノ數凡千三百九拾四
 方九千九百八拾壹田ニシテ前ニイフ所歲入千萬田ノ不足ヲ
 補填シテ三百九拾五萬田ノ贏餘アルヲ見ル

國用經制ノ大旨ヲ論ス

夫レ制用經國ノ法ヲ審カニシテ以テ國勢ノ興隆人民ノ男
安ヲ致ス所以ノモノハ獨リ司計侍臣ノ意ヲ茲ニ用ユハミナ
ラス持ニ執政諸臣ノ宜シク熟慮審處スベキ所ニアリイ
カントナレバ夫レ國ノ財用ヲ制スルノ道ハ先ツ明カニ全國
ノ大綱勢ヲ達觀シ務メテ利害輕重ノアル所ヲ審カニシ時
勢ニ應音シ資力ニ應シテ以テ之ク先後緩急ノ序ヲ定メ
出納収支ノ計ヲ參酌スルニ在リ故ニモ其議行ス
遠持重ノ見ナク強忍不拔ノ力ニ乏シクシテ其議行ス
ル所或ハ財計ヲ袒格シ法紀ヲ紊亂スルモノアラシム

ル時ハ縦令理財ノ官ヲ使テ夙夜拮据カテ整シテ
 経画セシムルモ竟ニ其謀為ノ施スベキ所ナキニ至ル
 ヲ以テナリ抑前條陳スル所ノ十説之ヲ前ニ言フ所歳
 入ノ減ニ以算スレハ優ニ之ヲ補足シテ以テ猶若干ハ
 餘贏アルカ如シ然レモ古今國計ノ情状支出ノ額
 ハ常ニ嘗テ計度スル所ノ外ニ溢レ易クシテ收入ノ算
 ハ常ニ豫定ノ数ニ充テカタキモノ以テ皆然リ而ルニ况
 ヤ六説以下新タニ其稅額ヲ科率シテ以テ之ヲ補苴
 スルカ如キハ固ヨリ時勢民情ヲ洞察シテ而シテ後ニ
 始メテ之ヲ指設スベキモノ多キニ於テオヤ故ニモシ

其歳入既ニ減スルノ速カニシテ新稅未タ起スベカラハルノ日ニ方リテ

其機宜ヲ謀リテ之ヲ増損消息スル者ニ至テハ決シテ膠柱刻

舷ノ陋ニ倣フテ以テ之ヲ論スベキ所ニアラズ

今試ニ方令收ナメ際ニ於テ之ヲ論スルニ支用ノ申啓言ハ其事急ナ
 ルカ如クシテ之ヲ省クモ大害ヲキモナリ營造建築軍艦購入ノ如キ是ナリ其事緩ナルカ如クシテ之
 ヲ為シテ鉅利存スル者アリ學校教育物産勸課ノ如キ是ナリ之ヲ作スニ速カニ其利ヲ獲カタク者
 アリ鑛山開採地方測量ノ如キ是ナリ之ヲ省テ忽テ其效ヲ見ルモノアリ兵教ヲ減シ冗費ヲ省ク
 如キ是ナリ凡是等皆其先後ヲ審クニ資カテ揣リテ之ヲ消息セサルベカラズシテ其收入ニ於ルモ亦意ヲ用
 弁テ参酌スベキモノナリ譬言ハ租稅ヲ寬シテ大民心ヲ服スルモノナリ地券百分三稅ノ如キ是ナリ科
 斂ヲ急ニシテ以テ或ハ財源ヲ塞クモノナリ商工稅輸出物品稅ノ如キ是ナリ其事行フニ易カラズシテ利
 ヲ收ル元大ナルモノナリ輸入物品稅ノ如キ是ナリ其法施シカタクニ非スシテ民心ヲ損スル或ハ甚シキモノナリ
 分頭稅家産稅ノ如キ是ナリ以上ノ言フ所其施設先後ノ方固ヨリ一端ニ非サルナリ

之ヲ要スルニ其經制ノ方タル先ッ本年豫算歳出ノ額ヲ以テ準トシテ

共ニ之ヲ守リ誓テ其支用ノ之ニ過ルヲ許ルカズ然レモ内外公債償還ノ

如キハ九年ノ數本年ヨリ増ス丁百五万三千四ニシテ十年ニ至テハ更ニ

百六拾九万田ニ至ル十年以後邊ニ減スルモ尚若干万田ノ差アリテ十六年
ニ至テ始メテ本年ノ額ヨリ減ス故ニ此数年ノ間必此不足ヲ補フテ
以テ其償還ヲ完フセラル得ズ且本年ノ収米ヲ金ニ折スルモノ一石價
金四四七拾四錢余ヲ以テ準トス後年モ米價ヲシテ之ヨリ低下ナラレ
ルハ亦必金額ノ不足ヲ生セシ凡是等ノ類豫シメ之カ虞ヲナサザル
ベカラズシテ之ニ加フルニ地稅ノ更革ニ因テ千万田ノ減アル時ハ之
ヲ補フニ必前ノ十說ヲ以テスベキモ若其時機ノ未タ至ラズシテ
尚此稅科ノ徵スベカラハルト事業ノ新ニ起スアリテ別ニ支出
ヲ要スルモノトシ臨ンテハ必之ヲ各官省經費中ニ分排シテ
各其常額ノ幾分ヲ減シ有無相補ヒ長短互ニ資ケテ以テ一

切本年豫算支出ノ額ヲ踰ルヲ得ス是則今後十年ノ區
域ヲ畫シテ以テ國用ヲ制スルノ大旨ナリ唯深ク懼ルハ
モノハ上下ノ議論少レク財用ノ餘裕アルニ會スレバ乃チ氣弛ミ
志滿チたりニ豊驕侈大ノ念ヲ生シ輒チ此限節ヲ越エ濫
費冗用遽々ニ歲計虚耗ヲ致サンコトヲモシ然ラハ則チ前ノ十說
ノ如キモ万々此算測スル所ニ充カタキノミナラズシテ又却テ有
司滿溢ノ媒ヲ成スニ至ルモノナキヲ保ヤズ故ニモシ此揣度幸
ニ謬ラズシテ實ニ國計ノ餘贏アラシムルモ決シテ支出ノ冗
濫ヲ致サズ弥益裁節積蓄シテ以テ永ク國勢ノ興隆人
民ノ富康ヲ致サンコトヲ望ムベキナリ

附論

夫レ國用ヲ制スルハ民カヲ量ルニ在テ民カヲ裕カニスル
 ハ生物ノ多キニ由ルモレ生物ヲ多クシテ民カヲ裕カニセン
 ●ト欲スルハ農産ノ稅タル寬ニセハルヘカラズシテ勸
 課ノ方タル密ナラズンハアルベカラズ而シテ其勸課ノ
 法タル固ヨリ一ナラズト雖モ蓋シ智カヲ開擴シ運輸
 ヲ便ニスルヨリ急ナルハナシ且方今諸河ノ堤防築造
 未タ堅牢ヲ極メズシテ屢次潰決ノ害ヲ致ストキハ是亦
 意ヲ加エテ修理セザルヘカラズ是等ノ事業其之ヲ為
 サントスルニ及ンテハ先ツ其資本ヲ求メザルベカラズシテ我

事端日ニ繁ク文費尤モ博キノ日ニ當リテ之ヲ方法ヲ講スル
 民ニ取ルノ制亦其宜シク起スベキ者ナルカ如シ即チ分頭稅家
 屋稅等ノ如キ是ナリ夫レ旧政府封建割據ノ日民ヲ役スルノ多
 キヲ見ルニ實ニ今日ノ以ニアラズシテ維新ノ後悉皆之ヲ放免スル者
 所謂ル川々國役金藏前入用傳馬宿六尺給米等數項ノ諸稅
 其民ニ与フル殆ント百万田ニ近クシテ其他諸藩ノ徭役ニ至テハ之ヲシ
 テ堤防土木ノ用ニ供シ驛傳人馬ノ資ヲ助ケ浚溝築壘ノ役ニ就キ
 採薪汲炊ノ勞ニ服セシメ鷹犬狗馬ノ供給ニ應ジ玆玩獻貢ノ需
 用ニ應セシムルカ如キ獨リ其米金ヲ徵收スルノミナラズシ
 テ人民ノ道途ニ奔走シ衣食ヲ耗竭シテ以テ上用ニ供

スル者其時日服勞ノ價ニ至テハ其幾千萬圓ナルカ殆ニ
 ト算測スベカラズ而シテ廢藩置縣ノ際皆自カラ停
 廢スルトキハ今之ニ換フルニ若干萬ノ賦課ヲ以テスルモ民孰レカ之
 不可トセニ然レモ地券稅ノ未ダ全ク行ワレザル民費ノ少ナカラ
 ザル煩擾ノ除カザルモノアリテ未ダ之ヲ議スルヲ得ス若シ既ニ
 地券ヲシテ全國ニ行ワレシムルニ繁ク去リ擾ヲ除キ大ニ民力ヲ
 蘇息スルニ足リテ方ニ始メテ此稅ヲ起スベキノ機ニ適ヒシ是
 ニ於テ或ヤ先ツ全國ノ壯男女一人ニ賦スルニ一年三日ノ役錢ヲ
 以テス是則我大寶令丁男三日ノ役ナルモノニテ獨リ洋制
 摸擬スルニ非ス今之ヲ概算スルニ全國人口男女三千三百萬

中ニ就テ皇族及び陸海軍巡查卒及び殘廢篤疾ヲ除
キ琉球藩ノ外^其一歳以上五十歳以下男女凡二千六百人トシ
壯男千五百五十万人ニテ壹人三百ノ役十五錢^{一日}此金百七拾貳
萬五千圓壯女千四百五十万人ニテ同上九錢^{一日}此金百三拾万五千圓
合計三百〇三萬圓ヲ得ベシ今之ヲ地方官ニ委ニテ學校ノ資
給道路ノ修繕堤防ノ築造ニ充メハ其或ハ智力ヲ開
擴ニ運輸ヲ便スルノ一端ヲ助ケン且猶之ニ加フルニ堤防修
築ノ用百三拾七萬圓<sup>本年豫算ヲ以テスルハ亦必諸河潰裂
ノ患ヲ禦クニ足ルニナラス生物ノ源ヲ疏通ニ運輸ノ便ヲ弘擴
ニ其實益益ニ量ルハカラサルモノアラニトス</sup>

大
痛
省